

令和三年度 奈良県租税教育推進連絡協議会会長賞

養育医療制度のおかげ

奈良市立月ヶ瀬中学校 一年 松本 恵舞

「あなた達双子は、養育医療制度のおかげで、入院費が少なくて助かったんだよ。」母に税金のことを聞くと、そう言いました。私は驚いたのと同時に、養育医療制度とは何だろうと思い、生まれた時の事を詳しく母に聞きました。

私達双子は、母子共に助けられるように、予定日より二ヶ月早く、帝王切開で生まれたそうです。手術室には保育器が二つ用意され、それぞれの担当に分かれ、たくさんの先生と看護師さんが、私達の命を助ける為に万全の準備をしてくれていました。姉は千四百十六g、私は千四百六十二gの極低出生体重児として生まれました。私は仮死状態で、すぐに人工呼吸器をつけられ、保育器に入り、NICU（新生児集中治療室）に入院しました。NICUでは、先生や看護師さんが二十四時間体制で、いろいろな検査や治療を受けました。一ヶ月後に保育器を出て、GCU（回復治療室）へ入り、引き続き治療を受け、二ヶ月弱の入院期間で無事に二人共、退院できたそうです。その間の医療費は相当高かったと思いましたが、養育医療制度を申請したおかげで、オムツ代などの実費しか払わなくて済んだそうで、とても助かったと母は話してくれました。

養育医療制度は、出生時二千g以下、または身体の発育が未熟なまま出生した子供で、入院する子供に給付を行う制度で、これも集められた税金によって賄われています。もしも養育医療制度がなかったら、高額な代金を払うことになり、負担はとても大きくなります。

今まで私は、税金についてしっかり考えたことはありませんでした。ですが、この話を聞いて、税金は知らないだけで、様々な所で使われていることが分かりました。

「もし養育医療制度がなかったら」と考えると、親の負担はどれだけだったのだろうと不安になりました。適切な治療を受けられなかったら、もしかすると、助かっていなかったかもしれません。そう思うと、養育医療制度はすごく大切な制度だと思いました。

私は、税金のおかげで、今元気に過ごせていると思います。中学生の私は、今はまだ、消費税しか払っていませんが、少しの税金でも、人の命を助けることもできるので、大人になって働くようになったら、子供達や高齢者の方、私達の生活の豊かさのために、しっかり納税したいです。